



隠岐の成り立ち



2600万年前



大陸の時代（2600万年前頃、時張山累層堆積期）
日本海はアジア大陸の一部で、隠岐郡島周辺では東北
ー南西に伸びる凹地ができ、そこでは火山が激しく噴
火していた。（監修：山内靖喜、原画：山内輝子）

1800万年前



湖の時代（1800万年前頃、郡累層の堆積期後半）
隱岐郡島の大半は大きな湖になっており、周りには
落葉広葉樹の林がしげり、近くでは火山が噴火して
いた。（監修：山内靖喜、原画：山内輝子）

1500万年前



海の時代（1500万年前頃、久見累層の堆積期前半）
本州沿岸部を含めた広い地域が海になり、隠岐郡島は
起伏に富んだ海底であった。

（監修：山内靖喜、原画：山内輝子）

600万年前



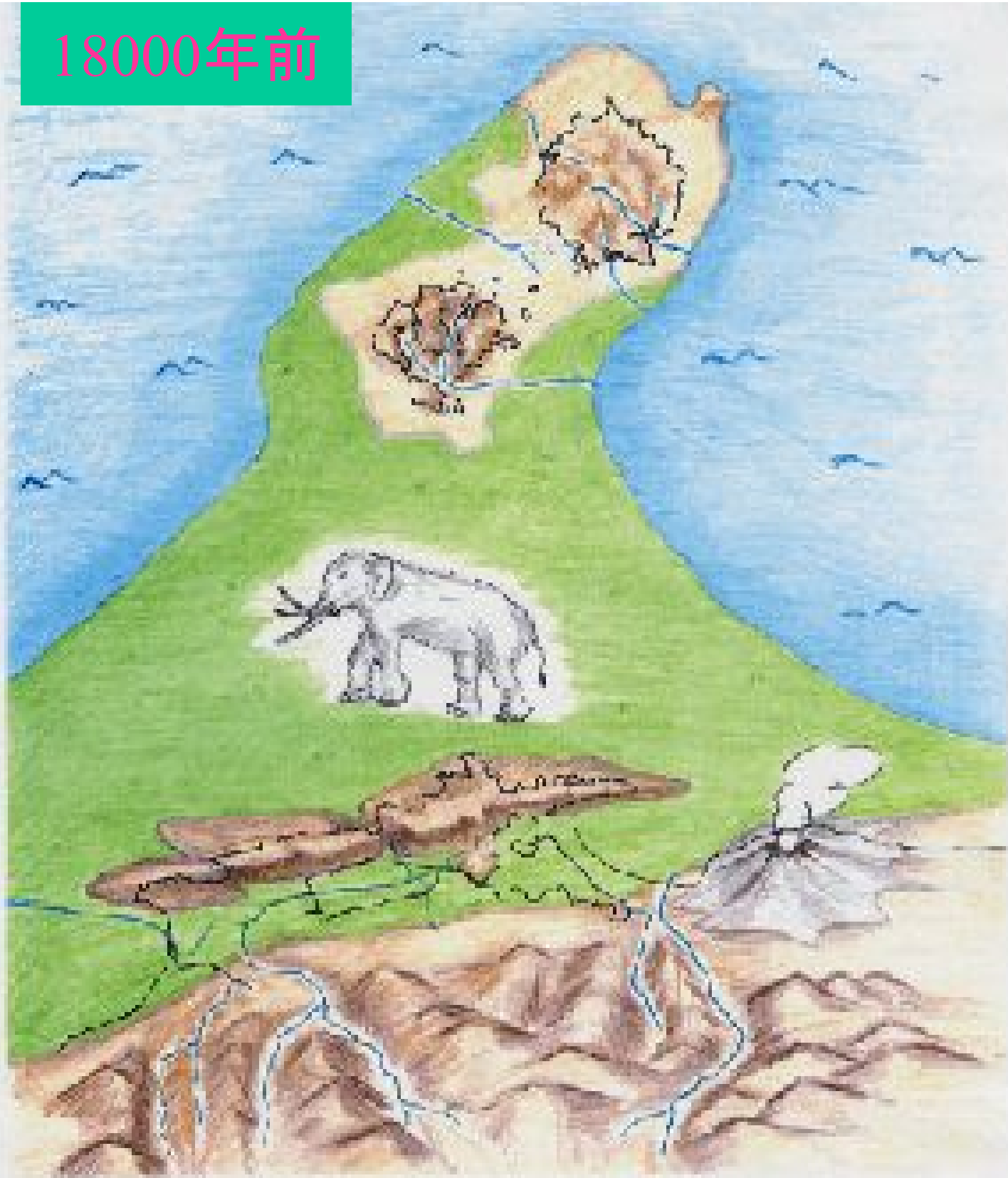
島になった頃（600万年前頃、隠岐流紋岩祖面岩類の噴出）島後・島前は陸化し、激しい火山活動が起こり、横尾山、葛尾山、崎山などの原形が作られた。
（監修：山内靖喜、原画：山内輝子）

100万年前



大きな半島の時代（100万年前頃、西郷玄武岩の噴出）隠岐郡島は島根半島から伸びた大きな半島の一部で、西郷付近や布施港付近の火山から玄武岩溶岩が噴出した。（監修：山内靖喜、原画：山内輝子）

18000年前



寒冷な時代（18000年前頃、最終氷期最盛期）
海面は今より約140m低く、島根半島と隠岐郡
島の間は広い平野でナウマン象などがいた。その後
海面は上昇して島後は現在の島になった。

